

山国川青地区河川改修事業における景観設計

九州工業大学大学院工学研究科 学生員○佐々木和之
洋建築設計事務所 中山 剛志
黒川紀章建築都市設計事務所 梶山 篤史
九州工業大学工学部 正会員 仲間 浩一

1. はじめに

山国川は福岡・大分県境の英彦山に源を発し、景勝地耶馬溪、中津平野を経て、周防灘に注ぐ、流域面積540km²、幹線流路延長56km、内36.5kmの直轄管理区間を持つ一級河川である。

山国川青地区は菊池寛の小説「恩讐の彼方に」の舞台として有名な「青の洞門」、景勝地「競秀峰」を有し、年間約170万人の観光客が訪れる、大分県有数の観光地である。地区の下流堤内側には観光客向けの駐車場、堤外側には自然水族館（通称水辺公園）が整備されている（図2）。

その一方、青地区は堤防整備の遅れも相まって、治水能力の不足から長年に渡り度重なる水害に見舞われており、1993年にも床上床下浸水、橋の流失を伴う氾濫が発生した。

これを受けて国土交通省山国川河川事務所は、



図2 青地区（写真左側）

2003年より青地区河川整備検討委員会を開催し、2004年秋より河川改修工事が進行中である。

本稿は、同委員会の流れを踏まえつつ、山国川景観整備基本計画策定に向けた、九州工業大学景観工学研究室の動きを紹介するものである。

2. 青地区河川整備検討委員会

第1回青地区河川整備検討委員会は国土交通省大分工事事務所及び山国川ダム・堰統合管理事務所により、2003年3月26日に開かれた。その後、4月1日の同省の組織改正により山国川河川事務所主催となり、第2回（8月26日）～第5回（2004年7月15日）が開催された。主な議題と各回の日程は図1の通りである。

このうち、第2回、第3回、第4回において、九州工業大学景観工学研究室より、模型を用いた提案（図1●印）を行った。

3. 模型を用いた提案

本稿では紙面が限られているため、三回に渡る提案のうち、改善案の提案を行った第3回の提案について紹介する。

原案を基にした模型（表1）によると、堤内地側では、観光客が滞留する主要な場所である水辺公園から競秀峰への眺望が、4m上昇する堤防によって阻まれている。

一方、堤外地側である駐車場からの眺望も堤防に

第1回青地区河川整備検討委員会（2003.3.26） ○委員会設立の趣旨 ○青地区の現状と改修上の課題 ○今後の進め方 ○意見交換・現地踏査
第2回青地区河川整備検討委員会（2003.8.26） ○第1回委員会における意見等の整理 ○景観まちづくりを考慮した整備コンセプト案の提案 ○下流閉め切り部の整備方針案の提案 ○護岸形式、素材、各種イメージの提案 ○意見交換 ●模型による締め切り箇所4原案の検討
第3回青地区河川整備検討委員会（2003.10.31） ○第2回委員会における意見等の整理 ○景観まちづくりを考慮した整備コンセプト案の提案 ○下流閉め切り部の整備方針案の提案 ○意見交換 ●模型による堤防の形状の検討
第4回青地区河川整備検討委員会（2004.2.12） ○第3回委員会における意見等の整理 ○上流部整備方針案の提案 ○下流部整備方針案の提案 ○各種イメージの提案 ○意見交換 ●堤防を含んだ斜面のテクスチャ模型の提示
第5回青地区河川整備検討委員会（2004.7.15） ○第4回委員会における意見等の整理 ○これまでの地元要望に対する整備の方向性 ○上流部整備方針案の提案 ○下流部整備方針案の提案 ○堤防天端及び散策路の仕上げ ○意見交換

図1 委員会開催の流れ¹⁾

よって囲まれており、かなりの閉塞感が予想された。

そこで改善案では、堤防の法線を変更(図3)することにより、水辺公園からの眺望の改善と、堤外地と青の洞門へのアクセスの改善を計っている。

堤内地側では、緩やかに上下する丘の中に堤防の高さを組み込み、閉塞感のない眺望を示した。

この模型の提示を通じて、「堤防を幾何学的な断面の構造物として建設するのではなく、水辺の滑らかな斜面の中に堤防機能が埋まっているという考え方で設計する」²⁾という方針でまとめることができた。

4. まとめ

三回の模型提示を通じて、無堤区間に設置する堤防の締め切り位置、締め切り方法、その表面のテクスチャについて提示することができた。

引き続き、九州工業大学景観工学研究室では、このような模型製作を通して、景観の検討に役立つ材料を提供していきたい。

謝辞：この研究は(株)東京建設コンサルタンツ九州支社との共同研究です。同社に厚く御礼申し上げます。

表1 1/200 模型¹⁾

	堤外地側	堤内地側
現況		
原案	競秀峰が堤防に阻まれる 	堤防に囲まれ閉塞感がある
改善案	競秀峰への展望と洞門へのアクセスを確保 	なだらかに乗り越え閉塞感がない

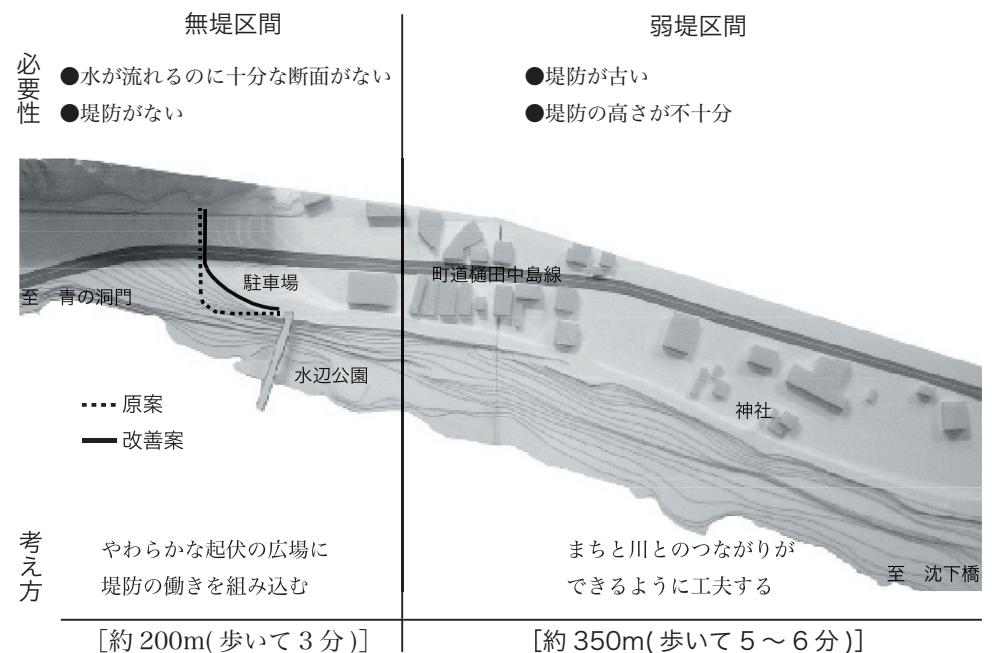


図3 デザインの考え方¹⁾ (1/500 模型)

参考文献

1) 梶山篤史：地域固有の価値と体験に基づく風景デザインの目標設定のありかた，九州工業大学大学院工学研究科建設社会工学専攻修士論文(2004) を基にして筆者加筆

2) 中山剛志：河川整備事業におけるデザイン合意の過程—山国川・青地区での事例について—，九州工業大学工学部建設社会工学科卒業論文(2004) より引用